

安平町の新たなチャレンジ！

町の課題解決に向け民間のノウハウを活用！

地域おこし企業人就任から一年

企業人が町に新たなイノベーションをおこしていく！

地域おこし企業人交流プログラムとは・・・

町では昨年11月から、総務省が展開するプログラムのもと、地域おこし協力隊の企業版ともいえる「地域おこし企業人交流プログラム」を取り組んでいます。

この制度は、三大都市圏に所在する民間企業等の社員が、そのノウハウや企業人本人の知見を活かし、一定期間、地方公共団体において、地域独自の魅力や価値の向上などにつながる業務に従事してもらうプログラム。

このプログラムにおける企業人については、受入自治体の職員（地方公務員）とはならず、派遣元の企業の身分を有したままであることを前提としています（派遣期間中の職務、就業条件、などについては、協議のうえ協定を締結しています）。

第2次安平町総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる目標を早期に達成するため、戦略的なパートナーと共に2年目のチャレンジにつなげていきます。

町が第2次安平町総合計画において、重要政策として掲げる3つの取り

組み（①子育て・教育分野 ②移住・定住対策 ③回遊・交流促進）に加え、昨年9月に発生した、北海道胆振東部地震の影響により『町外への人口流出』、『子育て・教育に対する不安感』、『コミュニティ・地域活力の低下』など新たな課題も発生したこともあり、地域が抱える課題が更に広がっています。

こうした町が抱える地域課題に対して、ソフトバンク株式会社、株式会社FoundingBaseの企業の強みと、企業人の持つ専門知識や業務経験、人脈、ノウハウを基に、現在、様々な分野において、町の地方創生に取り組んでいます。

震災を経験して、過去に無い程の逆境下にあります。ピンチをチャンスに転じられるよう、目指すまちづくりに向けて取り組んでいかなければなりません。

今回は、昨年着任いただいた地域おこし企業人、2人の一年間の取り組みをご紹介します。